

ALPS 処理水海洋放出後 1 年間の福島県産水産物の単価

福島県水産海洋研究センター 放射能研究部

1 部門名

水産業－その他－市場・流通

2 担当者名

鷹崎和義

3 要旨

当所では、2023 年 8 月の ALPS 処理水海洋放出から 11 月末までの県産水産物(2022 年の水揚金額が 1 億円を超えた 11 種)の単価を月別に調査し、放出後に単価が低下した種は 3 種のみであることを示した⁽¹⁾。2023 年 9 月～2024 年 8 月(放出開始年)、2022 年 9 月～2023 年 8 月(放出前年)、2021 年 9 月～2022 年 8 月(放出前々年)における 11 種の単価の推移を月別に整理したところ、放出開始年の単価が放出前年、放出前々年に比して低かったのはオキナマコのみだった。

(1) 放出開始年の単価が 10%以上低下した月の数が多かったのは、オキナマコ(10 ケ月)、シラス、サバ類、スズキ(4 ケ月)であった(表-1)。一方、ヒラメ、マアナゴでは、単価が 10%以上低下した月は無かった。

(2) 2024 年 2～4 月のスズキの単価が低下した一因として、近 3 年で水揚量が最も多かったことが考えられた(図-1)。一方、オキナマコの単価の低下は水揚量とは関係が無く、別の要因があるものと推測された。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明

5 主な参考文献・資料

- (1) 遠藤雅宗ら(2024), ALPS 処理水海洋放出後の福島県産水産物の単価, 令和 5 年度参考となる成果

表-1 放出開始年の単価が 10%以上低下*した月数

No.	種名/月	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	計
1	ヒラメ													0
2	シラス		○	○		-	-	-	-	●	●			4
3	ヤナギダコ				●	●	○					-	-	3
4	サバ類					○	○	○					●	4
5	スズキ					●	●	●	○					4
6	カツオ		-	-	-	-	-	-					●	1
7	オキナマコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	10
8	タチウオ				○							○		2
9	マアナゴ													0
10	トラフグ										○	○	○	3
11	キアソウ									○	○	○		3
	計	1	1	2	4	3	4	3	2	3	5	3	3	34

* : 放出前年または放出前々年のうち、単価が放出開始年と近い年と比較
○ : 10%以上低下した月 (うち●は水揚量が3年間で最多) - : 水揚無し

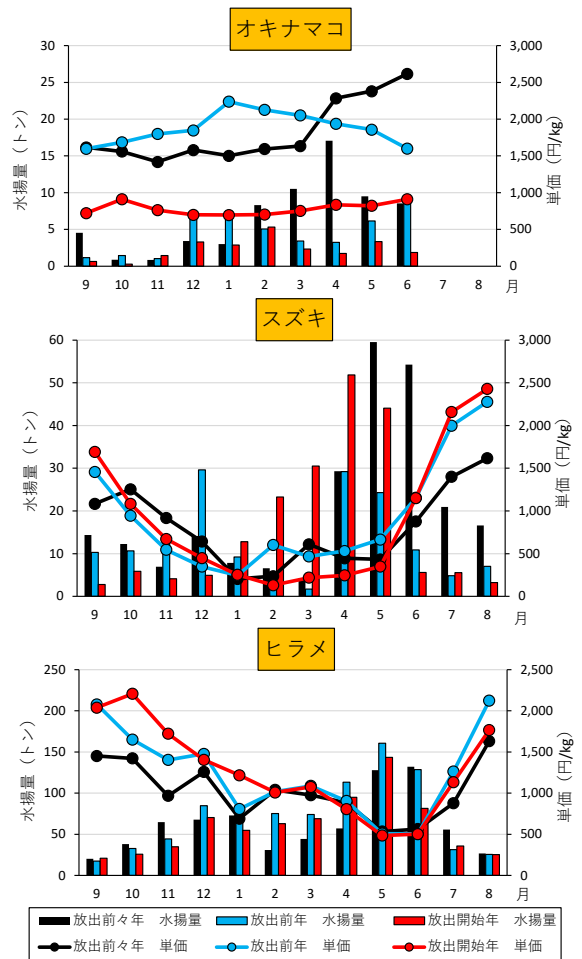


図-1 主要福島県産水産物の水揚量・単価

- (上) 放出開始年に単価が低下した例 (水揚量と関係無)
- (中) 放出開始年に単価が低下した例 (水揚量と関係有)
- (下) 放出開始年に単価の低下が無かった例